

---

# ボクと仲間と召喚獣

七海

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ボクと仲間と召喚獣

### 【Zコード】

N7132W

### 【作者名】

七海

### 【あらすじ】

ここ、文月学園に通う吉井明久、姫路瑞希、坂本雄一、霧島翔子は自他共に認める仲良し4人組み。振り分け試験でトラブルがあり、全員成績最低のFクラスに振り分けられてしまった。そして、明久たちは試験戦争始めることとなつた。

## 設定（前書き）

初投稿です

馴文かもしぬませんんがよろしくお願いします^\_^(ーー)^\_<

## 設定

この小説は・・・・・・・・  
CPは明久×瑞希、雄一×翔子です。まだそのほかにも考えると思  
います。

少し、美波に対しての扱いがひどくなるかもです。  
明久、瑞希、雄一、翔子は幼馴染で仲がよく、全員頭が良い設定に  
なっています。

### オリキャラデータ

名前 碇 悠太

性別 男

身長 175? 体重 59キロ

特技 水泳（全国トップクラス）

好きなもの　甘いもの　友達

成績  
第2学年学年主席

翔子の1年のときのクラスメイト。成績は互角  
だいたい一教科の科目は450～480くらい

性格  
人見知りをしなく、友達は全員呼び捨てにするほどフレ  
ンドリー

容姿もとでもよいのでモテる。だが、優子に好意を抱いている。

容姿　茶髪で秀吉のすこし短くしてとじかぶつけていた

召喚獣　騎士に海賊がもつてているような刀。

腕輪は　「炎」　相手のまわりに火の輪をつくり逃げ場をなく  
する

一回につき100点消費

## 設定（後書き）

アドバイスなどおねがいします

ボクと鷹おとみさんとの出来事ー（前編）

明久たちがであつた話です

ボクと過去とみんなとの出会いー

~~~~~ NOSHDE ~~~~

「」は、長月公園、そこに少女と少年がいた。

「・・・ねえ、さつき雄一が話していた。大化の改新つていつのこ  
と?」

「三年生にもなってそんなこともしらないのか?」

「・・・まだ留つてない。雄一の頭が良すぎるだけ。」

「覚え方は、『無事故の改新』で覚えるんだ。」

「・・・無事故?」

「忘れるなよ。大化の改新は無事故でおきたから、

「……わかつた絶対忘れない。」

「なんだこれ？」

雄一が地面にあつたウサギのヘアピンをみつけた。

「……どうしたの？ 雄一」

「いや、地面に、ヘアピンが……」「瑞希ちゃんヘアピンを今田もがんばってみつけようね。」「

それを遮るよつこ、ピンクの髪をしたふわふわした印象の少女と、茶髪の明るい印象の少年があた。

「ありがと。明久君。今日は絶対見つけようね。」

「なんだあいつら？……もしかして」

雄一は自分がもつてこぬくアピングを探そうとしている。『

た。

「……雄一へじつたの。」

「悪い、翔子。ちょっとまつてくれ。」

「……わかつた。」

~~~~~明久SHODE~~~~~

ボクと瑞希ちゃんが瑞希ちゃんのくアピングをみつけたりしている  
と、赤い髪をしたボクと同じ年くらいの男の子が「」むかって  
きた。

「おーい。お前ら。」

「君は誰?」

「それよりも、もしかして」のくアピング。」

男子が見せたのは瑞希ちゃんが一昨日落としたくアピングだった。  
それをみた瞬間、「」いつが盗んだんだ。そう思った。

「わのやのくアポンを・・・」おー!なんでお前がもつてこるんだ  
ー。」

「はあ?いやお前人の話をき「やつてもこことと懲り」とがある  
んだぞー。」

ボクは男の子のことを無視し怒った。

~~~~~雄一SHIDE~~~~~

俺は「こいつにお前が盗んだみたいしたこと」いわれて、カチンつときた。

「おまえふざけた」とこいつをじやねえよー勝手に決めつけんじやね  
ー。」

「ふざけたんのはおまえだー瑞希ちゃんの大切なものを盗みやがつ  
て」

「だから違うってこいつているだろー。」

そしてふざけたバカと口論になっていた。そして殴り合ってまでに発  
展していた

「あ、明久君落ち着いて！」

バカといつしょにいた女の子が止めようとしたが、バカには聞こえなかつたみたいだ。

「…………待つて！」

「翔子！ばか、さがつてろ」

「わうだよ、きみはわがつて」

「…………雄一(せい)のベアピンをひらひらしていた。わたしもみたから間違いない。」

翔子は凜とした声でわうわう言つた。

「えつ、わうなの？」

「…………それが納得しないならケンカなんかせずこきちらとお互に話すべき。」

その言葉を聞いてバカとお互い話をした。



ボクと鷹杖とみんなとの玉笛二ー（後編）

翔子の性格をひょっと変えました

ボクと奥様とみなとの玉緒ご? (前編)

続ხです

更新遅くてすみません^\_^(ーー) v

ボクと週末とみんなとの出来事は？

—— 明久 S I D E ——

ボクは女の子がいつたように男の子と話した。

そこまでボクは分かった。

男の子は嘘をついていなくてボクが悪かったところを。

まだ子供だけじ、後悔した。

ともかく謝りないと、と思つた。

「あ、あのや、じめ「いや、」」  
悪かつたな……」

「え？」「いや、ボクのほうが悪いんだから……」

「いや、俺も翔子の言つとおつしきちんと話すべきだつたな

「」「めんなれー」

ふたり同時に謝り、気が付いたらお互に笑いあつた。

「せういえば、名前聞いてなかつたね。君たち名前はなんていつの  
？」

「俺は 長月小学校小3で、坂本雄一。で……」ひびき……

「

「……霧島翔子。よひじく

「うふ。よひじく。ボクは陸月小学校小3の吉井明久だよ。」

「私は姫路瑞希だよ。」

「へえー。同じ小3なんだな。気が合ってそうだ。」

「それより、坂本雄一ってあの神童のだよね?」

「まあそりだけど……けっこまつてんだな。」

「や、そんな人と友達になれるなんて。」

「まあ、よひじく。」

「よひじくね。雄一、翔子ちゃん。」

「え、呼び捨てか……」

「そんなの普通だよ。だって友達だよ。ね、瑞希ちゃん

「やうだね。じゃあ私もやう呼ぶね。よひじく。雄一君、翔子ちゃん

ん。」

「まあそりだな。あ、そりだ。瑞希、これヘアピン。すっかり忘れてた。」

「あ、ありがとうございます。」

「・・・・・まだ時間があるから、みんなで遊ぼ。」

— そうだな。じゃ一缶けりでもするか!』

「…さんやーーー！」

これが、ボクらの出会いだつた。

そして、ずっとあの公園で4人で遊んでいた。

中学は、雄二は霜月中の推薦を断つてボクらと同じ中学校にいた。

とてもうれしかった。

そして、高校は文月学園に、ボクは、頭の良い3人に囲まれていたため、最下位の成績から、Aクラスの下位並みの成績に成長した。

そして、1年の3月2年のクラスをきめる振り分け試験が始まった。

ボクと奥井とみんなとの出来事? (後編)

なんとか、過去終わりました。

アドバイスや感想をお願いします。

ボクと波乱と振り分け試験

明久 S I D E

今日は振り分け試験だ。

大丈夫、雄一達に勉強を教えてもらつたんだ。

みんなといつしょのクラスになれる。

そう信じて文月学園に向かつた。

途中歩いていると、幼馴染たちに会つた。

「雄一、翔子ちゃん、瑞希ちゃん、ねねーーー。」

「ん、明久じゃねえか、おはよー」

「……明久、おはよう。」

「明久君。おはようござります」

「今日はいよいよ振り分け試験だな」

「・・・・・みんな、同じくクラスがいい。」

「そうですね。みんな同じクラスがいいですね。」

「大丈夫だよ。」

そんな会話をしていると文丘学園についた。

「おっ、振り分け試験の教室が張り出されていいるぜ。」

「ん、あ。ボクと瑞希ちゃんは、翔子ちゃんはこいつよだけど、雄一は別の教室だねえー」

「本当ですね。では雄一君はまた後で。」

「・・・・雄一、試験がんばって。」

翔子ちゃんに応援されて、雄一は・・・・・

照れていた。まつたく、一人とも両想いなのに・・・

「んじゅね雄一、「

「明久ーお前へマやらかすなよー」

「わかつてるよ。」

ボクと瑞希ちゃんと翔子ちゃんは雄一と別れて教室に向かった。

＼＼＼＼翔子SHIDE＼＼＼＼＼

今日は絶対あの人勝つ！

そんな気持ちで試験を待っていた。

「・・・・瑞希。」

「なんですか？翔子ちゃん」

「・・・瑞希、今日は顔が赤い、大丈夫？」

「べ、べつに大丈夫ですよ。今日は私元氣ですか。」

瑞希は、昔から嘘をつくのが下手だ。でも、一生懸命がんばりうつと  
している。私は邪魔できない。

「・・・やう。無理しないでね。」

その後試験が始まった。いまは、日本史だ。私と雄一の得意科目。

ガタツ

瑞希が倒れてしまった。

「「瑞希ーー（瑞希ちゃん）」」

明久もそれに気づいて、瑞希に駆け寄った。

「吉井、霧島、試験中だ。席につけ。」

「・・・保健室につれていかないと。」

「翔子ちゃん。ボクもいくよ。」

「し、試験中の退席は無得点になるんだぞ。それでもいいのか。」

「・・友達をほつといて試験なんて受けられません。」

「か、勝手にしたまえ。」

なんであの教師はそこでも酷いこといえるのだ？！

ともかく私と明久は瑞希をつれて保健室にいった。

## ボクと波乱と振り分け試験（後書き）

感想、質問、アドバイスなどなどよろしくお願ひします。

## 雄一と歓喜と新学期（前書き）

前回のあらすじ

振り分け試験中に瑞希ちゃんが倒れてボクと翔子ちゃんは瑞希ちゃんを保健室につれていった！

b よ 吉井明久

## 雄一と野望と新学期

雄一 SIDE

Jのくらいの問題なら余裕だな。

明久たちも大丈夫だろ？

ん？だれかがろうかを走っているな。

途中退席か。

• • • • • • • • • • • • • • • • •

おかしい。俺の幼馴染にそつくりだ・・・

あ、あれは明久と翔子か？

瑞希が倒れたのか。

俺一人Aクラスにいつても意味がねえな

そうだ！アノ手があるじゃねえか

たしか、Fクラス代表の点数は大体1000くらいだな

下剋上のスタートだ！

新学期

明久SIDE

「明久君ーおはよつばっせーこます。」

「あ、瑞希ちゃん。おはよーー！」

「ところで、振り分け試験のときの熱はもう大丈夫?」

「はい。おかげですっかりよくなりました・・・ゴホゴホ」

言葉とは裏腹にまだ本調子ではないようだ。

「本当に大丈夫なの?あんまり無理しないほうが・・・」

「大丈夫ですよー。」のへりご。」

会話をしているうちに雄一と翔子ちゃんに会つた。

「おはよー。一人とも」

「おはよー。明久」

「それにしてもさ、雄二がFクラスの代表になるように点数操作した、つてきかされた時はびっくりしたよ。

「・・・私も驚いた。」

「だつて俺一人別のクラスいってもつまんねえからな。」

「みんな同じクラスになれてよかつたです。」

「おはよー。吉井、坂本、霧島、姫路。」

文丘学園についた途端聞こえたドスのきいた声・・・・まさか。

「おはよー。」ぞこます。西村先生。」

「おはよー。」ぞこます。鉄人。」

「はあー。なぜ貴様らはいつまでたつても『西村先生』と呼べないのか」

「すみません。西村先生」

翔子ちゃんと瑞希ちゃんが律儀に謝る。二人共すゞいなあー。鉄人  
なんだからそんなに謝らなくてもいいのに

「まあいい。受け取れ。振り分け試験の結果だ。坂本は別として3  
人とも残念だつたな。職員会議で半分に意見が割れてな。そして学  
園長も『それが学園の決まりさね。』といつてな。」

驚いた。鉄人が生徒をそこまで思つているなんて。

「吉井、霧島。お前らの行動は友達思いで勇気ある行動だと思つぞ。

」

「「ありがとうございます」」

因みに結果はいつまでもないけど

ボク、瑞希ちゃんと翔子ちゃんはFクラス

雄一もFクラスだったけど狙い通り代表だった。

いつして波乱の新学期が始まった。

## 雄一と野望と新学期（後書き）

「いいまでが長い（笑）

## ボクとみんなとクラス（前書き）

更新遅れて「メンナサイ」――<

ありすじ

全員Fクラスになつた

by 坂本雄二

## ボクとみんなとFクラス

翔子 SIDE

私達はFクラスを目指して雑談しながら歩いていた

「すこし来るのがはやかつたみたいだな」

「やうですね。やうこえれば噂に聞いたことがあるんですけど…」

「一年生のときに一年生の設備のことって聞かされてなかつたじやないですか。それで、噂をきいたんですけど……Fクラスの設備つて卓袱台に腐つた畳に座布団とかという噂をきいたんですが、それつて本当でしょうか？」

「ボクはFクラスの設備のことは聞いたことないけど、酷いってよく聞くよ。」

「…私はあんまり聞かない。でも瑞希がいってたほどひどことは思わない。」

「ですよね。そんなにひどくはなことと思こまわね」

「そんな廃屋あるわけねえだろ」

「…ついた。」

改めて見て実感した、瑞希が聞いた噂は正しいのではないかと。

やの」ことはやはりあたりで教室のなかを入つてみると

酷いところづ言葉しかでこなかつた。

雄一SHIDE

思つてた以上にひどい設備だな。

やはり『戦争』を起こすしかない。

「雄一、明久、おはようなのじや。」

この独特のしゃべりかたは・・・俺たちの友達、木下秀吉が話しかけてきた。どうみても美少女にしか見えない顔をしているが、れつきとした男子だ。まあほとんどの奴が認めようとしないが。

「それに、なぜ霧島と姫路がここにいるのじや? そして、おぬしらは成績はよかつたはずじや?」

「あ、じつはね秀吉・・・・」

明久が秀吉の説明をしていった。

「なるほど。でももつ一度試験をできるのではないか？」

「それがな、お偉い学園長さまは認めないんだとさ」

そんな会話をしているとつぎと野郎共（蛆虫野郎）がはいつて  
きた、全員、翔子と瑞希と秀吉を見て『眼福じやー』といいながら  
はいつてくる。俺の大切な友達に手だしたら

タダジヤオカナイカラナ

俺は全員きたのを確認し、教壇？にあがつた

ボクとみんなとEクラス（後書き）

感想まとめます

## お知らせ

「ここにちはは作者の七海です。

約3か月更新しなくてすみませんでした。

本当に急ですがこの作品を書き直すと想っています。

理由は2つあります。

? 内容が薄すれりー...と思いだめだと思つたからと、

? 久しぶりに自分の作品を読んでいるとおかしいと思われる箇所  
が多数あつたからです。

感想をかいてくださつたみなさんありがとうございました。

書き直してもこの作品をよろしくお願ひいたします。

なお、設定はあまり変えません。

は『にしなこでくださ』

ああああああああああああああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああああああああああああああ  
ああああああああああああああああああああああああああああ



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7132w/>

---

ボクと仲間と召喚獣

2011年12月25日13時49分発行